

「第 11 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を開催

日本 OSS 推進フォーラム（代表幹事：株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 代表取締役常務執行役員 栗島 聡）は、「第 11 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を、2012 年 11 月 12 日（月）～13 日（火）にホテル日航那覇グランドキャッスル（沖縄県那覇市）において開催しました。日本・中国・韓国の産業界、研究機関、大学、政府関係者等より約 200 名の参加がありました。次回フォーラムは、2013 年に韓国で開催することが合意されました。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004 年以来、日本 OSS 推進フォーラム、中国 OSS 推進連盟及び韓国 OSS 推進フォーラムが協調し、各国における OSS の普及・発展に向けた活動を行っています。今回は、昨年中国西安市で開催された会合に続く第 11 回会合であり、各国の産・官関係者からの講演、ワーキンググループ（WG）¹の活動報告、各国で選ばれた OSS 貢献者の共同表彰等が行われました。



今回の会合では、日中韓のフォーラム参加者が、各 WG から報告された成果と今後の計画に関する議論に基づき、次の合意を得ました。

- ・ OSS は、オープンなコミュニティの活動により推進され、また、日中韓の産学官の智恵、知識および経験を集成した 9 年間の推進活動により、今や無くてはならないものであるとの共通認識に至りました。
- ・ 来年度が 10 年目となる節目に向け、4 つのワーキンググループによる北東アジア各国・地域の投資と人材により、世界の OSS コミュニティと産業との持続的な成長を実現するという、フォーラムのゴールを追求していくことを確認しました。
- ・ 昨年度設立されたガイダンスコミッティを早期に開催する事を合意しました。
- ・ 第 12 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、2013 年に韓国で開催します。

4 つの WG から報告された主な活動成果と今後の計画は、以下のとおりです。

¹ 北東アジア OSS 推進フォーラムには、①「WG1:技術開発・評価」②「WG2:人材育成」、③「WG3:標準化・認証研究」、④「WG4:適用推進」の 4 つのワーキンググループ（WG）が設置され、各 WG において専門的な議論が行われています。

I. WG1：技術開発・評価

- Crackerjack Project は、Linux カーネルの安定性に貢献する最新の 3. 3 版を 2012 年 10 月にリリースし、WG1 活動から卒業させることにしました。
- クラウドプロジェクトでは、中日 (CJ)、中韓 (CK)、日中 (CJ) の会合を開催し、パイロットプロジェクトへの参加、ソリューション展示、クラウドコンピューティング技術の共有などを実施しました。
- WG1 は、Internet of the Things、SmartCity の分野で、OSS に関係した有望な技術の研究を継続していきます。

II. WG2：人材育成

- “NEA OSS Sample Curriculum 2.1” を 2012 年 10 月に出版しました。
- OSS の人材開発を推進するために、第 7 回日中韓 OSS 貢献賞と特別貢献者賞を授与しました。
- 日中韓の OSS 開発のパイオニアが、今回の北東アジア OSS 推進フォーラムにて OSS トレーニングキャンプの時間をとり、知識と経験を伝えました。
- WG2 は、さらなる OSS 人材開発の強化、教材の共有、トレーニングの推進と相互認証をすすめます。

III. WG3：標準化・認証研究

- “OSS 成熟度アセスメント”を開始し、200 以上のプロジェクトについてアセスメントを完了しました。アセスメントの結果を比較し、OSS の品質について評価することができるリポジトリを開発し、*RepOSS* として公開しました。韓国ではアセスメントをもとに TTA (Telecommunications Technology Association) 標準：“OSS Categorization and Profile”を定義しました。
- WG3 は、OSS 成熟度アセスメント手法の開発を継続し、2012 年末までに OSS 成熟度アセスメントの事例を提供します。また、ユーザからのフィードバックを元に *RepOSS* のユーザビリティを継続して向上し、*RepOSS* 活用と OSS の利用を拡大させていきます。

IV. WG4：適用推進

- 北東アジアの OSS エコシステムの確立のために、OSS 適用システムの対象市場を絞り込み、物流分野をパイロットプロジェクトの適用分野としました。引き続き物流分野の市場調査を継続し、適用を推進していきます。
- WG4 は、産業レベルでの日中韓の連携を深めるための環境整備として、日中韓の OSS 会社のディレクトリを共同で作成し、OSS 関連のテクノロジーとサービスを明確にしていきます。
- WG4 は、引き続き、市場調査、業務モデル、移行ノウハウの研究を進め、日中韓で協力して、企業のビジネスやサービスモデルのイノベーションを推進していきます。

大会議長をつとめた日本 OSS 推進フォーラム代表幹事の栗島は、大会の最後に議長声明として、「全ての参加者が世界に広がる OSS コミュニティと価値を共有し、日中韓の政府・企業・教育機関や個人を含む各グループの偉大なる努力に大いに感謝します。フォーラムは、日中韓と他のアジア地域における IT 産業の成長をめざし、OSS 市場を拡大してきました。

ここに、OSS コミュニティのメンバーとして、オープンな世界を拡大し、豊かにすることを宣言します。」

と表明し、本大会を締めくくりました。

本会合に引き続き 11 月 14 日（水）に、内閣府沖縄総合事務所と日本 OSS 推進フォーラムは共同して、OSS 特別講演会（トレーニング・キャンプ）を開催しました。第 11 回北東アジア OSS 推進フォーラムへの中国、韓国からの参加者のほか、沖縄県の学生・若手技術者などが引き続き講演会に参加し、世界最先端の技術を学ぶと共に国際的交流が深まりました。

■本件に関するお問い合わせ先
日本 OSS 推進フォーラム
E-mail: info@ossforum.jp